

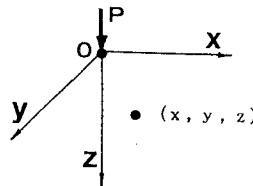
I-56 大形弾性直方体要素の剛性マトリックス

大阪工業大学 大学院 学生員 恩知 俊一
 大阪工業大学 正員 岡村 宏一
 東洋技研コンサルタント(株) 正員 石川 一美
 東洋技研コンサルタント(株) 正員 古市 亨

1. まえがき：近年、3次元弾性問題の解析には、3次元要素を用いた有限要素法が汎用化されている。しかしながら、通常の有限要素法を用いる場合、問題によっては、自由度が非常に大きくなるなどの難点を生じる。そこで、このような解析上の難点を克服するための1つの工夫として、解析モデルの離散化にあたって、大形の3次元要素を採択することが考えられる。本文で提案する直方体要素は、その周面に任意の材端応力と材端変位を与えることのできる大形の要素で、剛性マトリックスは、比較的簡単な解析解を基本解とし、選点法を併用して作成されている。

2. 基本解：基本解として、図-1に示すような、半無限体の表面に鉛直方向集中力が作用する解（Boussinesqの解）ならびに、水平方向集中力が作用する解（Cerrutiの解）を用いる。ここで、図-2に示すような分布幅（ c 、 d ）を持つ等分布荷重を受ける解は、図-1に示す集中力（ P ）が作用するときの解を分布幅（ c 、 d ）で積分することにより求める。

鉛直力を受ける場合（Boussinesqの解）



水平力を受ける場合（Cerrutiの解）

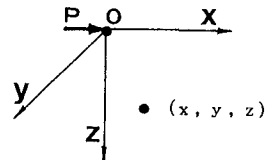
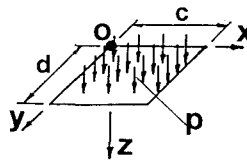


図-1

鉛直方向分布荷重



水平方向分布荷重

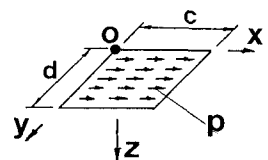


図-2

3. 剛性マトリックス：図-3に示す各境界面の選点（ n ）に任意の材端応力と材端変位を与えることの出来る剛性マトリックスを次の方法によって求める。まず、図-4(a)に示すような x y 面が半無限体表面となるようなモデルを考え、 x y 面の各分割面に、図に示す各方向（ x 、 y 、 z ）の分布荷重（ p_x 、 p_y 、 p_z ）を与え、各面の選点での変位（ u 、 v 、 w ）と、応力（ t_x 、 t_y 、 t_z ）との関係を求める。次に、図(b)、図(c)に示すように、 y z 面、 z x 面が半無限体の表面となるようなモデルを考え、同様に各面の選点での変位と応力との関係を求める。

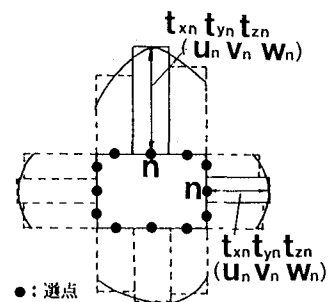
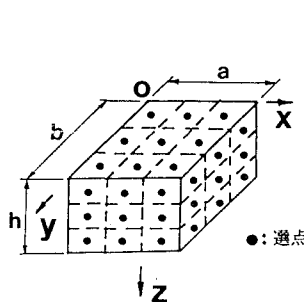


図-3

これらのモデルを重ね合わせると次式のような関係式が得られる。

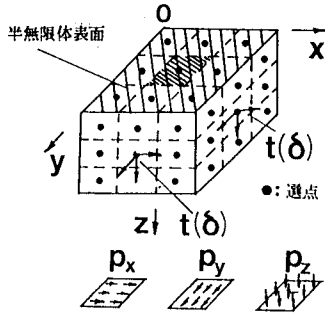
$$\{t\} = [A]\{p\}, \quad \{\delta\} = [B]\{p\} \quad (1)$$

ここで、 t ：応力のベクトル、 δ ：変位のベクトル、 p ：外力のベクトル。

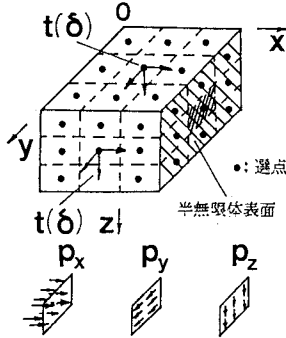
1) 島田功, 岡村宏一：厚い長方形スラブの応力と変形, 土木学会論文集第233号, 1975. 1

2) 古市, 岡村, 石川：3次元弾性大形直方体要素の剛性マトリックスの作成, 年次大会, 1990

x y 面を半無限体表面とした場合



y z 面を半無限体表面とした場合



x z 面を半無限体表面とした場合

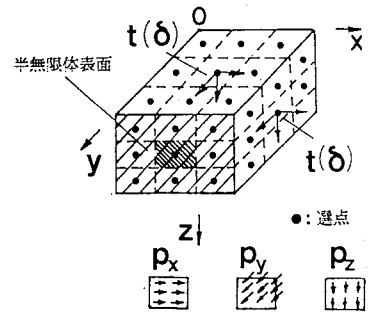


図-4

式(1)より、外力のベクトルを消去すると、3次元弾性直方体要素の剛性マトリックスが次式のように得られる。

$$\{t\} = [K] \{\delta\} \quad \text{----- (2)}$$

したがって、図-3のように任意方向の境界面に対する応力の分布は分割された小区間の選点における平均量の重ね合わせによって近似され、それぞれの選点の変位と関係づけられる。

4. 計算例：ここでは、大形直方体要素の剛性マトリックスの精度を検証するための基本的な例題を示す。

図-5に示す解析モデルは、2つの直方体要素を直接剛性法で接続し、上面に全面等分布荷重(q)を満載させ、下面自由、他の4面固定の条件を与えている。直方体要素の各小区間の分割は図-6に示すように5分割としている。

図-7には、辺長比(b_0/a)が1.0と2.0の場合について、スラブ厚比(h/a)を1.0, 0.5, 0.25と変化した時の応力 σ_x の分布を別解法¹⁾による結果と比較しているが、両者の値は良い一致を示した。

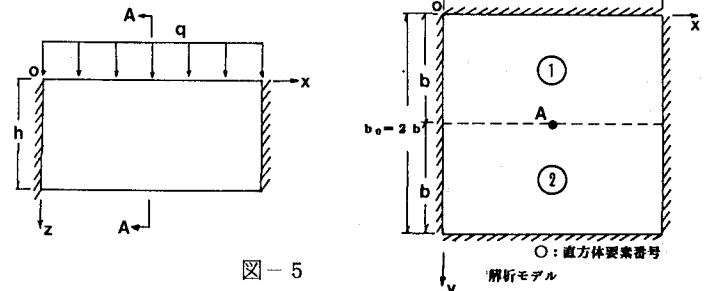


図-5

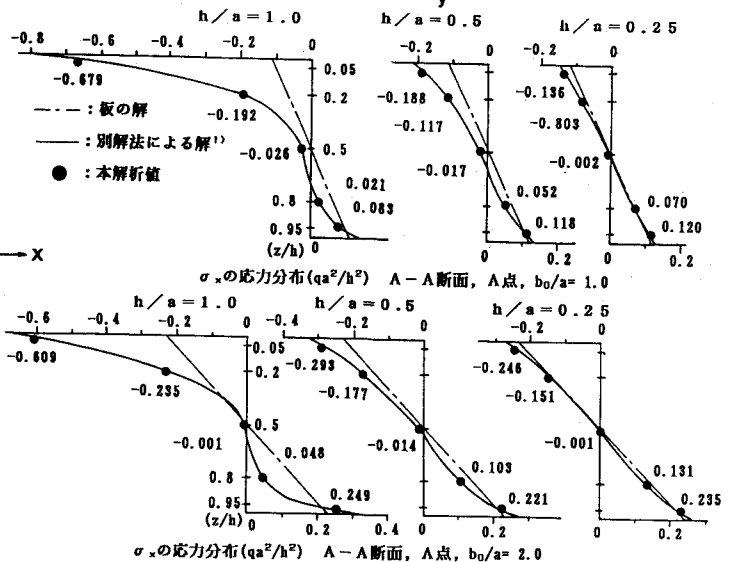


図-7

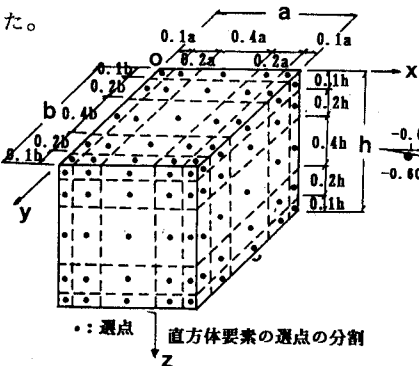


図-6